

H108		ワーク・ライフ・バランス入門	
英名科目名	Introduction to Work-Life Balance		
大学名	京都産業大学		
連絡先	教学センター TEL : 075-705-1425 FAX : 075-705-1582		
担当教員	関田 静香 (経済学部)		
開講期間	2021年04月15日(木)~2021年07月29日(木) 4講時 15時00分~16時30分(毎週木曜日) 2021/04/29(木)は開講 2021/05/06(木)は休講 2021/07/22(木)は開講		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	木曜日 4講時
単位数	2	履修年次	3年次以上
会場	科目開設校キャンパス		
授業定員			
単位互換生定員	5	京カレッジ生定員	5
試験・評価方法	毎回の小テスト84%、ミニレポートや授業後に出される課題16%		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	科25,000円 聴17,000円		
別途負担費用			
その他特記事項			
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>【講義概要】 【実務経験のある教員による授業科目】 少子高齢化が進捗し様々な社会経済課題を抱える日本においては、「性や年齢にかかわらず、すべての人が能力・個性を生かしながら、仕事も生活もどちらも充実させることの出来る社会の実現」が不可欠となりつつあります。このような社会を「ワーク・ライフ・バランス(WLB)社会」と呼びますが、日本ではその実現のために2007年に「WLB憲章」が策定され、WLBがより注目されるようになりました。この授業は、二つのことを目的として開講されています。一つは、日本社会にWLBが浸透するには今後どのような制度作りや変革が必要なのかを検討することです。もう一つは、受講者が自分のWLBについて考え、自分自身の人生を豊かにするためのヒントをつかむことです。多くの大学生は卒業すると間もなく、人生の激動期を迎えることになります。それを乗り越えるためには、大学生のうちから、様々なライフ・ステージで起こりうることを具体的にイメージすることが大きな助けとなるはずです。授業では、個人のライフ・ステージに沿って各人が直面する様々な課題(教育、就職、結婚、出産、育児、労働、医療、介護、定年、年金、資金運用、WLBと性など)を、それぞれの分野の専門家がリレー講義形式で扱っていきます。ゲスト講義では、内科医師をお招きし、中高年齢期の生き方や地域包括ケアについて話して頂きます。</p> <p>【授業の到達目標】 ・ WLBについてその概念や言葉が生まれた歴史的背景を理解する。 ・ 各ライフ・ステージにおけるWLBの現状を理解する。 ・ 日本におけるWLBの政策や制度を理解するとともにその限界について知り、課題解決を検討する。 ・ 自分自身の今後のWLBについて具体的に考えたり、見通したりする。</p>			
講義スケジュール			
<p>第1回 「労働の需要と供給と労働市場の均衡」(担当: 荒山) ワーク・ライフ・バランス(WLB)入門では、15回にわたりWLBとは何かについて考えていきます。第1回では、WLBという考え方が出てきた経緯について紹介するとともに、WLBを考えるのに必要となる労働の市場の需要と供給モデルについての理解を深めてもらいます。</p> <p>第2回 「労働市場の均衡とWLB」(担当: 荒山) 第1回のWLB入門では、1. データで見る日本における働き方(就業・時間の使い方)、2. 理論で見る労働時間の決定、および3</p>			

データで見る働き方の国際比較について講義をしました。第2回は、まず労働時間決定の考え方をもとにして、「働き過ぎ」、つまりWLBの喪失がなぜ起きるのかについて考えます。さらに、データで男性および女性の働き方の現状を見ていただきます。最後に、安倍内閣の「働き方改革」の取り組みの中で、「ワーク・ライフ・バランス」がどのように位置付けられているのかについても確認してもらいます。

第3回
若年期 : 「大学から職場へのスムーズな移行のために」(担当: 田中)
教育と将来の賃金を結びつけるのが労働経済学における人的資本論という考え方ですが、ここでは大学教育を例にとってその経済効果を検証してみます。また、最近話題になっているインターンシップについても紹介します。

第4回 若年期 : 「職場における自分の価値とは」(担当: 田中)
賃金は自分の生産性を反映します。つまり、賃金が高いのは、職場における自分の貢献度が高く、そのために高い評価を受けている、ということの意味する訳です。それでは、男女の賃金格差はどのように生まれるのでしょうか。

第5回 家庭形成期 : 「結婚するタイミング」(担当: 梶谷)
人々は結婚して新しい家庭を築きます。未婚化や晩婚化が進んでいるといわれている中、人々の結婚に対する意識はどのように変化しているのでしょうか。男性と女性それぞれの意識の変化を紹介しながら、結婚の意思決定について考えます。

第6回 子育て期 : 「親の時間の使い方」(担当: 梶谷)
子育て期に入ると、親は多くの時間を子育てに充てる必要があります。子育てによって父親・母親の一日の時間配分はどう変化するのでしょうか? 仕事と家事、育児の3つの時間に注目し、日本の子育て支援政策を紹介しながら子育て期における父親・母親の時間配分について考えます。

第7回 閑話休題 : 「働くことについて考える」(担当: 福井)
ここまでの講義では、社会に出て働くことが前提となっていました。では、何のために人は働くのでしょうか。少し立ち止まって考えてみましょう。

第8回 閑話休題 : 「過去現在未来について考える」(担当: 福井)
多くの人々が、結婚して家庭を持ち、子どもを設けていますが、そこに何の意味があるのでしょうか。生命について、あらためて考えてみましょう。

第9回
中高年期 : 「公的医療保険制度について知る」(担当: 塩津)
わが国の公的医療保険制度について解説します。医療の高度化は、私たちに恩恵と新たな課題をもたらしています。これらの課題解決の方法などについて考えていきます。

第10回 中高年期 : 「公的介護保険制度について」(担当: 塩津)
2000年に公的介護保険ができました。公的介護保険制度の基礎について解説し、WLBの観点から課題などについて考えます。

第11回 ゲスト講義 「内科医師が考える人生最終章の送り方」(担当: 広島大学大学院医系科学研究科 寄付講座講師・石田亮子氏)
人の死亡率は100%です。どのように生きて、どのように天寿を全うしたいですか。中高年齢期の生き方や地域包括ケアについて考えます。

第12回 老年期 : 「定年後の再雇用制度について」(担当: 松尾)
2013年4月に施行された改正高齢者雇用安定法により、定年(60歳)以降も働けるようになりました。60歳以降の高齢者雇用制度について解説した上で、高齢者労働の現実や働き方について考えていきます。

第13回 老年期 : 「公的年金制度」(担当: 松尾)
わが国の公的年金制度について解説します。わが国では、年金だけで生活できない貧しい高齢者が増えています。老後、貧困に陥らないための方策について考えます。

第14回 「パーソナル・ファイナンス」(担当: 関田)
アンケート調査の結果から、日本人の金銭観や老後についての考え方の傾向を知り、日本人が老後に向けてどの程度準備しているのかを概観します。その上で、私たちが人生を充実させるためにどのように計画・行動する必要があるのか学習します。

第15回「パーソナル・ファイナンス」(担当:関田)
人生において考えられるイベントを具体的にリストアップし、それに伴う収入・支出のデータを観察し、貯蓄(および借入)の方法についてのポイントを学習します。

ゲスト講義日の日程を調整する必要が生じた場合、各担当者の講義回を前後させます。詳細は開講後に連絡します。

教科書	毎回の授業の資料はムードル上にアップされます
参考書	